



タイトル「**2024年度危機管理学部(公開用)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT4602S		
科目名	ゼミナールⅡ		
担当教員	根本 和幸		
対象学年	3年,4年	開講学期	前期
曜日・時限	金 2		
講義室	1301	単位区分	必
授業形態	演習・ゼミナール	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門統合		
科目小分類	専門統合・演習		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1-E [学識・専門技能] 専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 DP3-G [状況把握力・判断力] 自らの置かれた状況、及び自己が帰属する集団の内外の状況を的確に把握し、適切に対応することができる。 DP4-F [探求力・課題解決力] 問を設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。 DP6-K [表現力・対話力] 文章及び口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。 DP7-L [協同力・牽引力] 集団的に課題解決を行う際に、自己の立場や責任を認識し、互いに集団の連帯を強めることができる。 DP8-M [省察力] 知識と経験とを関連付け学修成果を活用可能な状況に高めるとともに、これを新しく複雑な状況に転移させ課題解決につなげることができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 B1 自己啓発（〇%） C1 倫理的思考・社会認識（〇%） E1 学識と専門技能（〇%） G1 状況把握（〇%） I1 理解・分析と読解（〇%） I2 量的分析（〇%） I3 情報分析（〇%） K1 ライティング・コミュニケーション（〇%） K2 オーラル・コミュニケーション（〇%） L1 チームワーク（〇%） M1 総合的・応用的学修（〇%）		
教員の実務経験	2006年から2007年までの2年間、外務省国際法局国際法課において国際法調査員として勤務して、武力行使法や国際人道法、海洋法等、外交実務の現場で国際法の調査研究を行う機会を得ました。本授業では、外務省での調査員の経験を活かしてゼミナールを行います。		
成績ターゲット区分	■成績ターゲット 能力開発の目標ステージとの対応 3 発展期 ～ 4 定着期		
科目概要・キーワード	危機管理とその基礎となる法学に関する専門的な研究活動を実践するために、必要な研究の手法を学び、学生自らが個人の研究テーマを設定し、研究論文を執筆するための指導を行います。学生自らが危機管理に関する問題を発見し、仮説を構築し、自力で仮説を検証することに		

	より、問題の解決につなげ、危機管理能力を養います。ここでは、問題意識を確立し、卒業論文につなげる個人研究のテーマを決定すると同時に、先行研究を収集して専門領域に関する知識を獲得します。授業形態は演習形式により行います。 ■キーワード 国際法・国際社会における法の支配				
授業の趣旨	■副題 国際紛争と国際社会における法の支配 ■授業の目的 本ゼミナールでは、ゼミナールIでの基礎を踏まえて、国際紛争およびそれに伴う危機管理に関わる国際的な諸問題から、受講者が自らの関心に基づきテーマを設定し研究を行うことにより、国際法を通じたそれら諸問題の解決および国際社会における国際法の機能について理解を深めることを目的とします。また、普遍的な国際機構である「国際連合（United Nations）」の役割にも光を当て、ときに「理想化されて華やかな」イメージを帯びる国際連合が抱える様々な問題点や解決されなければならない課題が何かを見出し、全員で議論して知識を深めていく。 ■授業のポイント 2022年2月、ロシアはウクライナに対して軍事侵攻を開始して以来、軍事施設だけではなく、スーパーマーケットや病院、学校、原子力発電所などをも攻撃して多大な被害を生じさせています。私たちはそれらを事実としてニュース報道で知ることができますが、国際問題はニュースが伝えるほど単純なものではないし、「国際法」の視点からも、より深く考える必要がありそうです。ロシア・ウクライナ戦争の他にも、流動的な国際社会では日々様々な問題が起こっています。そこで、本演習では、安全保障や領土、人権・人道、海洋、地球環境といった現代的な具体的国際紛争を素材として、「法」という視点から国際社会を議論して、「国際社会における法の支配」の現状や普遍的な国際機構である「国際連合」の実効性を、実体的かつ制度的に検討していきます。				
総合到達目標	■国際紛争と危機管理をめぐる国際問題について、国際法の視点から説明できる。 ・国際法における研究を進めるにあたっての文献・資料等の検索、収集方法を身に付ける（第1回～第15回）。 ・各自の関心に沿った研究テーマを設定し、国際法および国際機構がどのように国際的な諸問題や危機への対処枠組みを構築しているかについて検討し、考察する姿勢を見に付ける（第1回～第15回）。 ・さらにこうした点について、自らの言葉および文章により論理的に説明する能力を身に付ける（第1回～第15回）。				
成績評価方法	■以下の方法で総合的に評価します。 ①自分が割り当てられた報告・質問・司会のでき具合（60%） ・適用ルーブリック：E1、I1、K1、K2、M1 ・評価基準：レジュメの構成と内容が十分であること、担当箇所の説明だけではなく、自分でリサーチをしたり自分の頭で考えたことを発表したりすることが重視されます。 ・フィードバック方法：報告内容について解説するとともに、評価基準にしたがってコメントします。 ②ゼミ中における発言といった、ゼミへの積極的参加の程度（40%） ・適用ルーブリック：B1、C1、E1、G1、I1、K2、L1、M1 ・評価基準：難しいことや正しいことよりも、履修者自らの直感・疑問・質問を、整理して全員ががわかるように発言できているかどうかを評価します。 ・フィードバック方法：毎回の授業において、議論への参加状況について講評を加えます。				
履修条件	国際法を履修済み、または3年次に履修予定であることが望ましいです。				
履修上の注意点	このゼミでは、ゼミ生ひとりひとりの疑問、質問を大切にしたいと考えています。「どうせくだらない質問だ」なんて思わずに発言することが強く歓迎されます。その意味で、学習意欲や知的好奇心に富んだ学生の積極的な参加を期待しています。むしろ、ただ座っているだけで発言がない（少ない）場合には単位取得自体が難しいことをあらかじめ明記しておきます。				
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th><th>内容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td> ①授業テーマ イントロダクション：ゼミナール全体の説明と計画の確認 ②授業概要 授業の狙いと内容、授業計画、成績評価、参考文献、受講の際の留意点などに関する説明をとおし、授業の全体的な概要を理解します（E1）。 初回であるため、履修者間のアイスブレイキングも実施します。 ③予習（90分） シラバスの内容を確認する。 ④復習（120分） </td></tr> </tbody> </table>	回	内容	1	①授業テーマ イントロダクション：ゼミナール全体の説明と計画の確認 ②授業概要 授業の狙いと内容、授業計画、成績評価、参考文献、受講の際の留意点などに関する説明をとおし、授業の全体的な概要を理解します（E1）。 初回であるため、履修者間のアイスブレイキングも実施します。 ③予習（90分） シラバスの内容を確認する。 ④復習（120分）
回	内容				
1	①授業テーマ イントロダクション：ゼミナール全体の説明と計画の確認 ②授業概要 授業の狙いと内容、授業計画、成績評価、参考文献、受講の際の留意点などに関する説明をとおし、授業の全体的な概要を理解します（E1）。 初回であるため、履修者間のアイスブレイキングも実施します。 ③予習（90分） シラバスの内容を確認する。 ④復習（120分）				

	このゼミナールの内容をシラバスや配布資料を確認して、次回以降のゼミでの議論の準備をする。
2	①授業テーマ 国際法の研究方法 ②授業概要 国際法に関連するレポートや論文執筆に際して必要な資料（書籍、論文、その他）の検索・収集方法などを身に付ける（E1、F1、I1）。レポートや論文の執筆における研究倫理についても考察する（E1、I1、K1、K2）。 ③予習（90分） いわゆる「コピペ（コピー&ペースト）」はなぜ問題となるのかを考えてみる。 ④復習（120分） ゼミ内容を踏まえて、各自が関心のあるテーマについて、どのような資料が有用かを検索してみる。レジюмеやレポート、論文を執筆する際に守るべきルールを確認する。
3	①授業テーマ 国際法に関する研究テーマの選定と研究方法の検討（1） ②授業概要 履修者各自が関心のあるテーマに関する文献を報告し、履修者全員でディスカッションを行う（B1、C1、E1、G1、I1、K1、K2、L1、M1）。 ③予習（120分） 報告文献を熟読し、報告のためのレジюме作成とプレゼンテーションの準備を行う。 ④復習（120分） 報告およびゼミナールでのディスカッション、教員による指導等を踏まえ、自らの研究テーマに関して再度検討を行う。
4	①授業テーマ 国際法に関する研究テーマの選定と研究方法の検討（2） ②授業概要 履修者各自が関心のあるテーマに関する文献を報告し、履修者全員でディスカッションを行う（B1、C1、E1、G1、I1、K1、K2、L1、M1）。 ③予習（120分） 報告文献を熟読し、報告のためのレジюме作成とプレゼンテーションの準備を行う。 ④復習（120分） 報告およびゼミナールでのディスカッション、教員による指導等を踏まえ、自らの研究テーマに関して再度検討を行う。
5	①授業テーマ 国際法に関する研究テーマの選定と研究方法の検討（3） ②授業概要 履修者各自が関心のあるテーマに関する文献を報告し、履修者全員でディスカッションを行う（B1、C1、E1、G1、I1、K1、K2、L1、M1）。 ③予習（120分） 報告文献を熟読し、報告のためのレジюме作成とプレゼンテーションの準備を行う。 ④復習（120分） 報告およびゼミナールでのディスカッション、教員による指導等を踏まえ、自らの研究テーマに関して再度検討を行う。
6	①授業テーマ 国際法に関する研究テーマの選定と研究方法の検討（4） ②授業概要 履修者各自が関心のあるテーマに関する文献を報告し、履修者全員でディスカッションを行う（B1、C1、E1、G1、I1、K1、K2、L1、M1）。 ③予習（120分） 報告文献を熟読し、報告のためのレジюме作成とプレゼンテーションの準備を行う。 ④復習（120分） 報告およびゼミナールでのディスカッション、教員による指導等を踏まえ、自らの研究テーマに関して再度検討を行う。
7	①授業テーマ 国際法に関するドキュメンタリー鑑賞 ②授業概要 ゼミナールでの研究に関連するドキュメンタリーを鑑賞して、履修者全員でディスカッションを行う（B1、C1、E1、G1、I1、K1、K2、L1、M1）。 ③予習（120分） 鑑賞するドキュメンタリーの背景にある事実や関係する国際法について調査する。 ④復習（120分）

	ゼミナールでのディスカッションや教員のコメントを踏まえて、自らの考えを整理しておく。
8	①授業テーマ 国際法に関する研究テーマの選定と研究方法の検討（5） ②授業概要 履修者各自が関心のあるテーマに関する文献を報告し、履修者全員でディスカッションを行う（B1、C1、E1、G1、I1、K1、K2、L1、M1）。 ③予習（120分） 報告文献を熟読し、報告のためのレジюме作成とプレゼンテーションの準備を行う。 ④復習（120分） 報告およびゼミナールでのディスカッション、教員による指導等を踏まえ、自らの研究テーマに関して再度検討を行う。
9	①授業テーマ 国際法に関する研究テーマの選定と研究方法の検討（6） ②授業概要 履修者各自が関心のあるテーマに関する文献を報告し、履修者全員でディスカッションを行う（B1、C1、E1、G1、I1、K1、K2、L1、M1）。 ③予習（120分） 報告文献を熟読し、報告のためのレジюме作成とプレゼンテーションの準備を行う。 ④復習（120分） 報告およびゼミナールでのディスカッション、教員による指導等を踏まえ、自らの研究テーマに関して再度検討を行う。
10	①授業テーマ 国際法に関する研究テーマの選定と研究方法の検討（7） ②授業概要 履修者各自が関心のあるテーマに関する文献を報告し、履修者全員でディスカッションを行う（B1、C1、E1、G1、I1、K1、K2、L1、M1）。 ③予習（120分） 報告文献を熟読し、報告のためのレジюме作成とプレゼンテーションの準備を行う。 ④復習（120分） 報告およびゼミナールでのディスカッション、教員による指導等を踏まえ、自らの研究テーマに関して再度検討を行う。
11	①授業テーマ 国際法に関する研究テーマの選定と研究方法の検討（8） ②授業概要 履修者各自が関心のあるテーマに関する文献を報告し、履修者全員でディスカッションを行う（B1、C1、E1、G1、I1、K1、K2、L1、M1）。 ③予習（120分） 報告文献を熟読し、報告のためのレジюме作成とプレゼンテーションの準備を行う。 ④復習（120分） 報告およびゼミナールでのディスカッション、教員による指導等を踏まえ、自らの研究テーマに関して再度検討を行う。
12	①授業テーマ 国際法に関する研究テーマの選定と研究方法の検討（9） ②授業概要 履修者各自が関心のあるテーマに関する文献を報告し、履修者全員でディスカッションを行う（B1、C1、E1、G1、I1、K1、K2、L1、M1）。 ③予習（120分） 報告文献を熟読し、報告のためのレジюме作成とプレゼンテーションの準備を行う。 ④復習（120分） 報告およびゼミナールでのディスカッション、教員による指導等を踏まえ、自らの研究テーマに関して再度検討を行う。
13	①授業テーマ 国際法に関する研究テーマの選定と研究方法の検討（10） ②授業概要 履修者各自が関心のあるテーマに関する文献を報告し、履修者全員でディスカッションを行う（B1、C1、E1、G1、I1、K1、K2、L1、M1）。 ③予習（120分） 報告文献を熟読し、報告のためのレジюме作成とプレゼンテーションの準備を行う。 ④復習（120分） 報告およびゼミナールでのディスカッション、教員による指導等を踏まえ、自らの研究テーマに関して再度検討を行う。

	14 ①授業テーマ 国際法に関する研究テーマの選定と研究方法の検討（11） ②授業概要 履修者各自が関心のあるテーマに関する文献を報告し、履修者全員でディスカッションを行う（B1、C1、E1、G1、I1、K1、K2、L1、M1）。 ③予習（120分） 報告文献を熟読し、報告のためのレジュメ作成とプレゼンテーションの準備を行う。 ④復習（120分） 報告およびゼミナールでのディスカッション、教員による指導等を踏まえ、自らの研究テーマに関して再度検討を行う。 15 ①授業テーマ まとめ ②授業概要 これまでのゼミナールでの活動を総括して、ここでの学びがどのように次の学びに繋がっていくのかを考察します。（E1、G1、I1、M1）。 ③予習（120分） ゼミナールで使用したレジュメや配布資料に再度目を通しておく。 ④復習（120分） ゼミナールIIIにおける研究に向けた計画を立てる。
関連科目	①演習系科目としては、「自主創造の基礎（RMGST1218）」・「アカデミック・スキルズ（RMGT1219）」・「基礎ゼミ（RMGT2601S）」・「ゼミナールⅡ～Ⅴ（RMGT4602S・RMGT4603S・RMGT4604S・RMGT4605S）」と関連します。 ②講義科目については、国際法（RMGT3451）、国際人権・人道法（RMGT3453S）、安全保障論2（国家安全保障）（RMGT3553S）、平和構築論（RMGT3557S）と関連します。
教科書	1. 植木俊哉・中谷和弘（編）『国際条約集2024年版』（有斐閣、2024年） 2. 森川幸一、森肇志、岩月直樹、藤澤巖、北村 朋史（編）『国際法で世界がわかる—ニュースを読み解く32講—』（岩波書店、2016年）
参考書・参考URL	初回講義時およびゼミナール中に適宜紹介します。
連絡先・オフィスアワー	ゼミナールの前後に質問をお受けします。 それ以外の時間については、メールで事前にアポイントメントを取ってください。
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント20%：パブリックセキュリティ20%：グローバルセキュリティ40%：情報セキュリティ20% ■危機管理学と法学とのバランス 法学50%：危機管理学50%

